

地域の
明日をよむ

Through FFG's Kyushu network,
we share insights and success
stories—brightly lighting the
"next step" for business leaders
and communities.

一歩

2・3

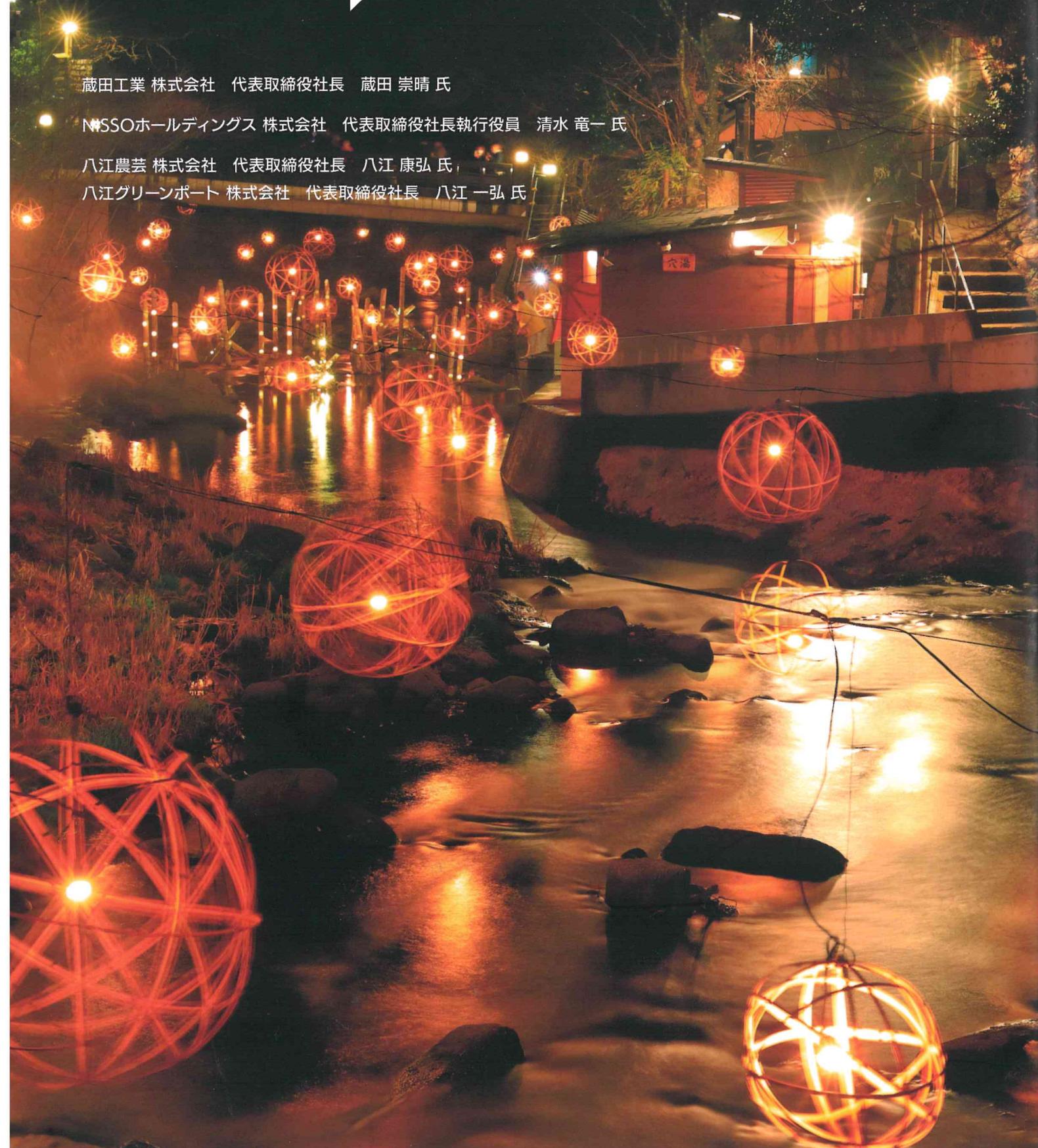
2026 Vol.179

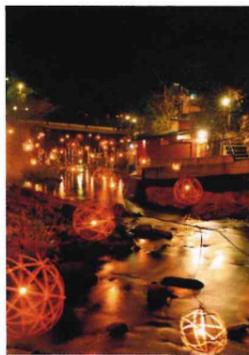
蔵田工業 株式会社 代表取締役社長 蔵田 崇晴 氏

NSSOホールディングス 株式会社 代表取締役社長執行役員 清水 竜一 氏

八江農芸 株式会社 代表取締役社長 八江 康弘 氏

八江グリーンポート 株式会社 代表取締役社長 八江 一弘 氏





黒川温泉 湯あかり
(熊本県阿蘇郡南小国町)

Back
Number



本誌のバックナンバーは、ふく
おかフィナンシャルグループの
ホームページにてご覧いただけ
ます。

懐かしい情景を探して
春の小川はキラキラいくよ

Top Interview

- 2 蔵田工業 株式会社
代表取締役社長 蔵田 崇晴 氏
- 8 NISSOホールディングス 株式会社
代表取締役社長執行役員 清水 竜一 氏
- 14 八江農芸 株式会社
代表取締役社長 八江 康弘 氏
八江グリーンポート 株式会社
代表取締役社長 八江 一弘 氏
- 20 うまかもん探訪
博多純情らーめん Shin-Shin(有限会社 Shin-Shin)
代表取締役 中牟田 信一 氏
- 26 さすてなぶる九州
株式会社 エコファクトリー
代表取締役社長／一級建築士 村上 尊由 氏
- 32 地銀9行連携レポート 伊予銀行
世界最大級の自転車国際会議「Velo-city」
～2027年5月に愛媛で国内初開催～
- 38 地域と共生するFFG
次世代へとつなぐ 小国町の挑戦
—All For The Next すべては次世代のために—
- 44 SDGsから見える10年後の会社の未来
コンダクト 株式会社 代表取締役 和田 克之 氏
- 62 海外駐在員事務所が伝えるグローバルの今
上海
- 64 九州企業のサステナビリティ
新熊本産業 株式会社 代表取締役社長 佐藤 竜二 氏
- 68 bank baton
経営に創造力を!
アート・イン・ビジネスに挑戦する
大学と銀行の、芸術文化共創ストーリー。
- 70 長崎だより
誰かの「好き」が、新しい景色をつくる
～長崎で生まれた推し巡りという挑戦～
- 74 お城巡り 最終回!!
中四・四国編②／九州・沖縄編②
- 76 九州の星
ストラドルキャリアー運転士(関門コンテナターミナル 株式会社)

懐かしい
情景を
探して

Looking for a nostalgic scene

春の小川は
キラキラいくよ



▲神野公園近くの並木道



▲上.象の鼻(嘉瀬川の取水口)／下.新梅檀橋近くに残る松



▲神野公園の隔林亭(茶室)

このころからかぐみでい
●神野公園隔林亭

住所:佐賀市神園4丁目1-3

多布施川は江戸時代、佐賀城下の洪水防止を
目的に嘉瀬川(※)から佐賀城の堀までを繋いだ人工
河川である。飲料水や灌漑のほか、川船が行き交う
運路としても利用された。春には流れを堰き止め
大規模な川浚えが行われ、松並木の続く清らかな
川であった。

昭和中期、松の木は台風や松くい虫の被害で枯れ
てしまい、代わりに桜や楓が植えられた。桜並木の
下には今でもキラキラと豊富な水が流れ、川沿いの
歩道は市民の散歩コースになっている。昭和30年頃
まであった梅檀橋近くの水泳場は閉鎖されたが、
昭和58年からはお城近くの護国神社東側に、夏休
みの間だけ水遊び場が開設されている。都会の中心
部には珍しい河川プールには、嬉しそうな子どもの
声が溢れている。

※脊振山系から有明海に注ぐ延長57kmの一級河川

(文・阿井川 圭)

深刻化する地球温暖化の問題は、人類の消費エネルギーによる莫大なCO₂の排出が大きな要因とされています。熊本県に活動拠点を置く株式会社エコファクトリー。その事業活動の原点は、「未来の子どもたちに、美しい地球を残したい」という創業者の揺るぎない思いです。同社では、生活エネルギーの約30%を占める空調分野でのエネルギー消費削減を目指して、エネルギー効率が高いとされる「輻射(※1)」による冷暖房システム「eCOWin[®]」を開発しました。この「eCOWin[®]」のブランド価値を

建築設計の豊富な実績を礎に独自技術を開発。 空気と水をコントロールしながら 建物のエコロジー化と環境保全に挑む。

シリーズ化し、様々なエネルギー消費を大幅に削減していくことを使命として活動を展開中です。省エネ空調の実績だけでも、体育館、図書館、工場、保育施設、福祉・医療施設など、国内外10,000台を超える納入で幅広く社会に貢献しています。

建築設計の領域から、私たちが直面しているエネルギーの課題に真っ向から取り組む同社の代表取締役社長村上尊由氏にお話を伺いました。

(※1)輻射：空気を介することなく遠赤外線によって熱が高いところから低いところへ移動する自然の熱移動原理

地球環境危機を意識したのを機に 事業の方針を大きく転換

当社の歩みは、創業者である父(村上尊宣^{たかのぶ}会長)が建築士として1996年に事務所を立ち上げたところから始まります。当初は、その頃の世相を反映したデザイン性の高い戸建てや共同住宅、公共施設などを数多く手がけて、各方面から社会的評価をいただいていたと聞いています。その一方で、デザイン偏重の設計が招く弊害として「夏は暑い、冬は寒い」というお客さまの声が届くようになり、「本当の快適性とは何か」の問いに向き合うきっかけとなりました。

更に、2000年代初頭に地球温暖化に関するシンポジウムに参加した経験が、会社に

株式会社 エコファクトリー

代表取締役社長 / 一級建築士

村上 尊由 氏

Takayoshi Murakami

取引店 / 熊本銀行 大江白川支店



村上社長



右から村上社長、小田支店長(熊本銀行)

**「環境保全」と「防災」にも
配慮したソリューションを提供**

また近年では、代表的技術「ecowin®」に加えて、当社独自の特許技術である「ecowinハイブリッド」が、特に注目を集めています。これは、「放射パネル」と「高性能エアコン」に、特許を取得した「独自の熱交換構造」を組み合わせた「放射×対流」によるハイブリッド方式で、学校体育館、工場、倉庫などの大空間に適したシステムです。早稲田大学環境総合研究センターによる評価で、エアコン単体運転比で最大34%の省エネ効果を確認しています。

当社は「冷温水式(放射100%)」と「ハイブリッド(放射×対流)」という2本の柱技術をもつ国内でも稀有なメーカーであるといえます。しかも、第三者機関からは、当社の空調事業は「環境・社会にポジティブな影響をもたらす事業」として高く評価されています。いわば、「ecowin®」は単なる「空調設備」ではなく、「環境配慮・快適性・防災」の3点を同時に満たす「ソリューション」であり、社会に貢献できるサービスとして期待されているわけです。

とつての決定的なターニングポイントとなりました。シンポジウムで知った地球環境の危機的状況に衝撃を受け、「わが子が大人になる頃には、地球を覆っている海面の水位がそんなにも上昇してしまうのか」と実感。さっそく翌日の朝礼で「これからは環境に貢献する会社になる」と宣言し、事業の方向性を大きく転換しました。この時点から当社は「意匠中心の建築設計」から脱却し、環境技術の開発に挑戦する会社へと経営の舵を切ったのです。

**「快適性」と「省エネ」を両立させる
画期的な新システムを実現**

当社が、現代社会が抱えているエネルギー問題の解決に貢献する会社へと生まれ変わるための試みを始めたのは2004年のこと。床下暖房を応用した放射式冷暖房の可能性への挑戦でした。日中は建築設計事務所の活動に励む傍ら、終業後には新システム創出を目指しての研究開発に打ち込んで、何年もの試行錯誤の末に生み出されたのが、当社の代表的技術である放射式冷暖房「ecowin®」です。

当社の基幹技術となっている「ecowin®」は、冷温水式の放射冷暖房システムで、簡単にいえば、パネルに冷温水を流して冷却・加熱をおこなうことで、冷暖房装置の機能を果たす仕組みです。無風・無音で、空間そのものを均一に整えるため、自然に包まれるような快適さが大きな特長であり、温度ムラが少なく、柔らかで優しい空間をつくるのに適しています。

完全無風のため、気流に影響されるスポーツに適しており、埃を巻き上げる心配もなく、アレルギーや空気感染のリスクを軽減し、快適で健康的な環境をつくり上げることも可能です。また、高い静粛性も兼ね備えていますので、オフィス、会議室、劇場、図書館、オーディオルームにも向いています。更に、従来の空調と比較



放射式冷暖房システム「ecowin®」の説明

して最大90%の電力削減を実現しているのも実証済みで、官公庁の体育館、天井の高い公共施設、福祉施設などで高い評価をいただいています。つまり、「快適性×省エネ」の二軸によって、当社におけるこの根幹技術は支えられているといえるでしょう。



村上社長

当社が培ってきた独自の創造力とデザイン力、技術力に加えて、システムの製造を担うチーム「ecowin®」との強固な連携、全国レベルの販売網によって地域密着展開を可能にする約80社におよぶ代理店ネットワークが、当社の技術開発を支えているのです。

(※2) オフグリッド：「電力網に接続していない状態」を意味し、再生可能エネルギーを利用して電力を自給自足する手法

(※3) GX：グリーントランスフォーメーション。太陽光、風力などのクリーンエネルギー中心の発電方法へと転換し、経済社会システム全体の変革を目指す取り組み

**未来の子どもたちに
美しい地球を残すために**

2021年、代表に就任した私は、その2年後に熊本県阿蘇郡西原村に地球環境への配慮が反映された建築工法「Woods Wall®工法」で建築した研究施設「地球倫理体現館SDGs LABO」を開設するなど、創業者が掲げた「未来の子どもたちに美しい地球を残す」という理念を受け継ぐ活動に力を注いでいます。そして、その理念の解像度を高めながら「社会への実装」をより進めていくのが今の私の使命と考えています。

エコファクトリーの沿革はいわば、「環境への危機感」から始まって、「快適性の追求」へとつながり、現在は「環境技術の総合化」へ発展し続けている物語である、と感じています。2026年に創立三十周年の節目を迎えますが、これからも放射技術を軸に、空気・水・建物を総合的にエコロジー化する企業として、果敢にチャレンジを続けてまいります。

株式会社 エコファクトリー

- 本社所在地：〒862-0950 熊本市中央区水前寺二丁目17番7号
- 電話番号：096-381-7033
- 創業／設立：1996年／1996年4月12日
- 従業員数：26名(2026年1月現在)
- 事業内容：輻射式(放熱式)冷暖房装置の製造・販売および保守点検、省エネルギー機器・自然エネルギー利用機器の研究・開発製造・販売および保守
- 事業拠点：地球倫理体現館SDGsLABO(熊本県阿蘇郡)



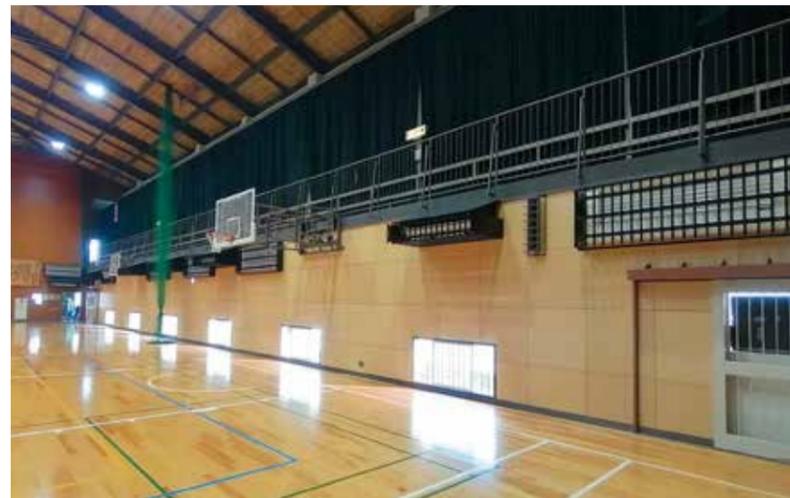
地球倫理体現館SDGsLABO▶



雨水を無動力で高品質な純水に変えるecowinWATER®



地球環境への配慮が反映された建築工法「WoodsWall®工法」



ecowinハイブリッド導入事例(菊陽中学校体育館)

加えて、「ecowin®」シリーズは空調分野だけに留まりません。雨水を無動力で純水化する「ecowinWATER®」、木質パネルを活用した軽量鉄骨工法でオフグリッド(※2)建築を実現する「Woods Wall®工法」(事業名「ecowinSTYLE」)も手がけて

おり、空調をきっかけとして「暮らしそのものを変える技術」の提供へと事業を進化させています。

これらのサービスのラインナップを通じて、社は、新たな技術の企画と設計をおこなって、システム機器の製造自体は協力会社に委託

する手法をとる「環境技術の総合メーカー」「総合GX(※3)メーカー」であることを最大のセールスポイントとしています。

更にいえば、当社が誇る独自技術が高く評価されているのは、技術そのものばかりでなく、組織全体の「総合力」にその理由があります。